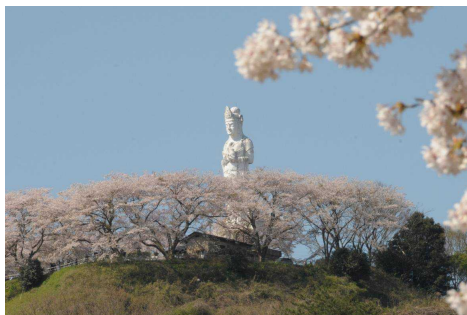
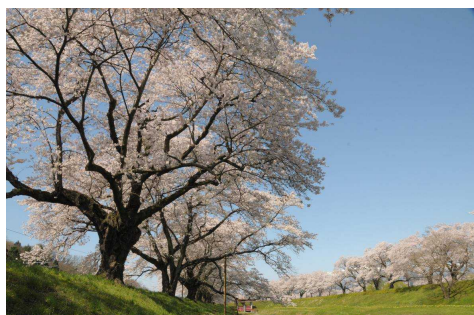


Monthly Report

Vol.47 / 2010 Apr.

東北有数の桜の名所 柴田町



日本さくら名所100選に選ばれている「船岡城址公園」と「白石川堤一目千本桜」が今年も鮮やかに町を彩り、見物客を集めました。今年は例年よりも遅い時期に降り積もった白石蔵王の残雪と桜がいつも以上に情緒漂う情景をつくりだしてくれました。

広報室では白石川沿いの風景を撮影しましたので、大学の紹介やサークルのホームページなどご使用を希望される方がいらっしゃいましたら広報室にお声掛け下さい。

目次

東北有数の桜の名所	1
新PROJECT発足 伊達なSPORT PROJECT	2
平成22年度入学式	3
国際交流	4
地域交流	6
スポーツマネジメント・コース 研修会	8
OBとの交流	10
学生の活躍	11

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

また、本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

新プロジェクト発足

SENDAI UNIVERSITY PORT PROJECT

S + PORT PROJECT = SPORT PROJECT

伊達なSPORT PROJECT

～ Plan Do Check Action (PDCA) サイクルによる
地域密着型スケルトン競技のタレント発掘・育成・評価プログラムの実践～



今年度から鈴木省三教授(ソチ五輪スケルトン強化担当)を責任者、朴澤学長を総括とする研究事業『伊達なSPORT PROJECT』が立ち上がりました。

このプロジェクトは2012年にオーストリアで開催される第1回ユースオリンピックに向け、高大連携・高大接続事業を展開している明成高校と柴田高校の1年生(1～3月生まれ)の中からスケルトン選手を発掘・育成・輩出し、好成績を収めることを目標としています。明成高校と柴田高校に限るのは練習場所となる本学に通いやすい環境が必須であるため、1年生の1～3月生まれに限るのはユースオリンピックの大会年齢規定によるものです。

このようなタレント発掘事業はJOCや自治体が主導して行っており、大学単独で行うのは国内でも初の試みです。また、国が行っているタレント発掘事業は中学生までのプログラムで高校生への接続がないので、このプログラムで成果が得ら

れば、JOCのプロジェクトとも接続できる可能性を秘めています。

更に、このプログラムには食育の展開を加味しており、栄養学に基づき、宮城県内の企業(株)鐘崎、(株)菓匠三全、(株)エム・オー・エー東日本販売、(財)蔵王酪農センター等々の協賛を得て、獨創性に富んだ食育プログラムの展開が期待されています。また、ユニフォームは(株)GANBAXに提供いただきます。地域企業の全面支援も受け、地産地消プログラムとして、地元密着した夢のある事業といえます。

4月15日(木)に明成高校を、19日(月)に柴田高校をプロジェクト責任者の鈴木省三先生とスタッフの柳谷新助手が訪問し、プロジェクトの対象年齢となる1995年1月1日～3月31日生まれの生徒に対して説明を行いました。25日には希望した生徒とその保護者に対してプロジェクトの詳細が説明されました。今後、選手選考会を経て選手が選ばれることになります。

なお、このプロジェクトについての内容は外部に公表しておらず、5月下旬に大々的に記者発表する予定となっております。

詳しくは伊達なSPORT PROJECT専用ホームページをご覧ください。専用ホームページへは本学HPのトップにあるバナーからお入り下さい。



平成22年度仙台大学第44回体育学部・第13回大学院 入学式



4月3日(土)に第2体育館を会場に平成22年度仙台大学第44回体育学部・第13回大学院入学式を挙行了しました。クラス担任が新生を一人ひとり呼名した後、朴澤学長より「体育学科359名、健康福祉学科125名、運動栄養学科91名、スポーツ情報マスメディア学科41名、編入生7名、大学院14名、計637名の入学を許可します。」と、入学許可告知がなされました。

学長挨拶では「仙台大学の教育領域であるスポーツ・健康を通じて人格形成を行い、互いに刺激しあい、充実した学生生活を送ってください。」との挨拶の後、入学生代表として運動栄養学科の前田悠希さん(山形南高校卒)が「体育・スポーツ・健康に関わる諸科学を探究し、これからの時代の担い手となるよう身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活を送るよう努力してまいります。」と力強く宣誓しました。

その後、学科ごとのオリエンテーションが行われ、保護者にも学科の特徴と方向性が示されました。



体育学科



健康福祉学科



運動栄養学科



スポーツ情報マスメディア学科

大学院では新生歓迎会が学生食堂で開催され、新生の自己紹介と大学院の講義を担当する教員から簡単な講義の説明がありました。



大型ビジョンがLEDディスプレイにバージョンアップ



文部科学省の平成21年度私立学校施設整備費補助金(私立学校教育研究装置等施設整備費)の交付を受け、第3体育館東側壁面に設置している大型ビジョンの画面がリニューアルしました。以前は光度不足により、昼間は映像が見えにくい状況でしたが、設置変更後は天候に関係なく鮮明な画像を見ることができます。

以前使用していた画面は4分割され、学生食堂・トレーニングセンター・KMCH・B棟2階に配置されました。この4台は単体でも使用可能ですが、大型ビジョンと連動して映写することも可能です。授業で学生が作成したコンテンツのプレゼンテーションの場として活用することなどが期待されています。

第5回フィンランド短期留学プログラムを実施



3月12日 4月3日の日程で、第5回フィンランド・カヤニ応用科学大学短期留学プログラムを実施し、高橋悠さん(スポーツ情報メディア学科3年)が同大学を訪問しました。

これは国際的な知識と語学力を養うことを目的に、国際交流協定を結んでいるカヤニ応用科学大学と、2007年から半年毎に互いの学生を受け入れて学生間の交流を図っているものです。

高橋 悠さん

私は英語に興味があり、1年間留学して勉強したいと思っています。当時の国際交流センター長の森教授に相談したところ、1人暮らしの経験すらない私を気遣ってくださり、「1年間は長いので、3週間の短期留学プログラムを経験してみたら決めても遅くないのではないか」との提案を頂き、今回のプログラム参加に至りました。

昨夏にハワイ大学アウトリーチ校で英語の「NICE」プログラムに参加した時は、受講生のほとんどが日本人で、困れば日本語が使える環境でした。一方、フィンランドには日本人が全くおらず、逆に不安を感じるくらいでした。フィンランドはフィンランド語が母国語ですが、英語を小学3年生から学び、ほとんどの国民が英語を話せます。英語で放送

するテレビ番組も多いのも頷けます。前回までのプログラムではフィンランド語での講義もあり、苦労したと聞いていましたが、今回は全て英語で講義が行われ、実技も多かったため理解しやすく、楽しく学ぶことができました。

短期留学を経験し、留学への思いがさらに強まりました。今年度の前期が終わったら休学して、1年間フィンランドへ留学したいと考えています。留学先については英語圏も考えましたが、治安が良く、日本人がほとんどいないフィンランドで学ぶことに決めました。3週間日本語が全く使えない状況で過ごしてみても、この環境の方が語学上達が早いと感じたからです。また、カヤニ応用科学大学と仙台大学は連携しているため、先生方に相談しやすいですし、何かあったとしても迅速な対応を取ってくれるという安心感があります。今年からカヤニ応用科学大学に「スポーツを英語で学ぶコース」ができたのもたいへん興味深いです。

なお、カヤニ応用科学大学と本学の間で、佐藤久准教授をリーダーとする共同研究がスタートしています。

シーナカリンウィロート大学(タイ王国)からの留学生



本学が国際交流協定を締結しているシーナカリンウィロート大学(タイ王国)4年生のカニッター(KANITTA)さんが4月1日から6ヶ月間の単位取得留学ため滞在中、本学の講義を受けています。

子供の頃からアジア圏の言語に興味がありました。その中でも子供の頃から毎日観ていた日本のアニメ番組の影響で日本語には一番関心があります。シーナカリンウィロート大学では日本語学科を専攻し、将来の夢である「日本語を活かせる仕事」に就くために勉強しています。今回の留学も、日本の文化や生活に触れながら自分の語学力を高めたいと思った

からです。

来日して数週間が経ちましたが寒い気候、日本食にも慣れてきました。滞在している国際交流会館(仮称)では中国人・台湾人留学生にお世話になりながら楽しく過ごしています。

日本人は知らない人でも挨拶をする素晴らしい文化を持った国だとおもいます。日本に滞在するのは6ヶ月と短いですが、多くの人と接点を持ち、日本の良い文化を吸収し、日本語が上達するように頑張りたいと思います。

カニッターさんは普通に会話できるほど日本語が流暢ですので、教職員・学生も積極的に話しかけてみて下さい。

台湾私立幼稚園協会関係者が来訪



4月23日(金)に台湾私立幼稚園協会の20名が来学しました。今回の来学は以前、本学学生の就職先でお世話になっている幼児体育研究所の七戸康弘氏(本学12回生)と朴澤学長とが台湾に赴いた際に、同協会の張(チョウ)素珍氏と面会する機会があり、同氏より「幼児教育だけでなく、高齢者教育に興味があるので、福島県での研修の際に仙台大学の介護予防施設も見学したい」との要望を受けたことがきっかけとなりました。今回の来日中は七戸

氏をはじめとする幼児体育研究所のスタッフ3名も同行しました。

朴澤学長との懇談の後、C棟転倒予防教室において近藤助教と岩垂新助手による介護予防体操の実技指導を行い、学食も利用して頂きました。本学には約2時間の滞在でしたが、台東大学から留学中の劉姿伶さんと曾鈺倫さんも帯同して交流を図るなど、本学の取組みを知って頂く良い機会となりました。

留学生歓迎お花見会



4月16日(金)に船岡城址公園において学生支援室主催による「留学生歓迎お花見会」が開催されました。桜は5分咲きの春冷えが厳しい中でしたが、教職員・学生50名が参加して、今年度から新たに加わった留学生10名を歓迎しました。ほとんどの留学生は来日から半年経っているため、日本語もある程度話せ、日本人学生とも気さくに会話を楽しみ、親睦を深めていました。

2010柴田さくらウォーキング



4月11日(日)に柴田町体育協会主催で「2010柴田さくらウォーキング」が行われ、ウォーキング8kmコースとノルディックウォーキング5kmコースにあわせて約100名が参加しました。ノルディックウォーキングは佐藤久准教授が

講師を務め、15分程度の基礎練習の後、5kmのコースを約1時間半かけて町の景観を楽しみながら歩きました。大会の安全を配慮して佐伯教授とウォーキング同好会の学生4名が補助役員として同行し、大会を陰で支えました。



前列左 / 蛭沢 祐さん (健康福祉学科4年)
 前列右 / 蔵本 将貴さん (健康福祉学科4年)
 後列中 / 今野 康平さん (体育学科2年)
 後列左 / 麻生 美佳子さん (健康福祉学科4年)
 後列右の方は他大学生

学生が地域の方と交通安全をPR



4月6 - 15日の平成22年度春の交通安全県民総ぐるみ運動の一環として6日に船岡駅前街頭キャンペーンが行われました。滝口町長や地域住民の方と共に本学から小林学生生活コンサルタント、丹羽講師、新体操競技部6名、学友会4名が参加し、通勤で混み合う7時15分から約1時間に

わり広告入りのティッシュを配布して交通安全を呼び掛けました。

参加した学友会の氏家美紀さん(体育学科2年)は「交通安全への関心は皆さん高いようで、大半の方にチラシを受け取って頂きました。このような形で地域に関われることが嬉しいです。」と話していました。

なお、平成22年度春の交通安全県民総ぐるみ運動の重点項目は以下の通りでした。

全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
 自転車の安全利用の推進
 飲酒運転の根絶

新生活がはじまるこの時期、大学には近隣住民の方から苦情が多く寄せられます。交通ルールを遵守し、規則正しい生活を心掛けましょう。

「柴田町おもてなしクリーン大作戦」に漕艇部が参加



3月27日(土)に、柴田町主催による「柴田町おもてなしクリーン大作戦」が開催され、本学から

は漕艇部員が参加しました。この清掃活動は一目千本桜で全国的に有名な柴田町を訪れる観光客に気持ちよく桜並木を眺めてほしいという願いを込め、町内の事業所や団体、行政区の有志など約550名が参加して行われているものです。

参加した漕艇部員は「普段お世話になっている町をきれいにできただけではなく、町民の方々との交流もできて有意義な時間でした」と話し、仙台大学の存在も十分にPRできたようでした。

第5回しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会



4月11日(日)に漕艇部が中心となって開催している「第5回しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会」が北船岡白石川河川敷で行われました。この体験会は身近にある自然の素晴らしさ、川環境を保つ大切さを肌で感じ、自分たちが住む町の良さを再認識することと、漕艇についての理解を深め柴田町のスポーツ振興の一助とすることを目的

的に開催されています。今回で5回目の開催とあり、町民の方にも恒例行事として認識されてきているイベントです。

開会式では柴田町の滝口町長や今年設立された柴田町ボート協会の児玉会長などが参加するなか、朴澤学長が「ボート競技を本気でやりたい人がいれば是非、仙台大学で世界を目指してもらいたい。」と挨拶されました。

体験会は転覆等の危険性が低いナックルフォアを使用し、漕艇部員の同乗のもと、安全に十分配慮して行われました。今年は桜の開花が例年よりも遅く1分咲き程度でしたが、新緑に彩られた白石川堤越しに見る柴田町の風景を眺めながらボートを楽しんでいました。

参加者からは「ボートは初めての体験で、楽しい時間をすごすことができた。また来年も参加してみたい」との声が聞かれました。

なお、この様子は翌日の4月12日にミヤギテレビ「OH!バンデス」等で放映されました。

平成22年度 学都仙台コンソーシアム広報スタッフ決定



スポーツ情報マスメディア学科の大黒ゆきこさん(3年)と高橋央(なかば)さん(2年)が今年度の学都仙台コンソーシアム広報サポートスタッフに決まりました。

広報サポートスタッフは各大学から数名募って構成され、活動内容は 学生の立場からの意見交換会

への出席、ホームページ更新、フリーペーパー作成です。文章を書くことが好きな2人なので、スタッフの中心となって頑張ってくれる事でしょう。

大黒ゆきこさん

普段も学内有志でフリーペーパーを作成しています。これまでは学内だけの活動でしたが、他大学の方と作業ができ、宮城県内に発信していくものが作れるので楽しみです。今までフリーペーパー製作に携わってきた経験を活かしながら、他大学の方と良いものをつくっていききたいと思います。

高橋 央さん

書くことが好きで、将来は記者を志望しています。大学では情報戦略コースでスポーツ情報を分析し、伝える事を学んでいます。仙台圏のほかの学生と一緒に、学都仙台を伝える作業の中で、情報戦略の一部でも活かす事ができればと思います。

献血車「いずみ号」による構内 献血事業



日本赤十字社による献血事業の一環として、献血車「いずみ号」が4月26日(月)に訪問しました。今年度、第1回目の構内での献血活動で、教職員、学生合わせて80名が受付し、うち43名が採血の協力を行ないました。当日は併せて「骨髄バンク登録会」も開催され、骨髄バンクについての理解を深めてもらえたようです。

平成22年度 スポーツマネジメント・コース春季研修会 兼 スポーツマネジメント実習事前研修会



去る平成22年4月24日(土)～25日(日)、蔵王自然の家にて標記研修会を開催しました。参加者は、スポーツマネジメント・コース所属の2年生57名(全67名中)と、コース担当教員5名、およびコース3年生の補助学生2名の、計64名でした。

本研修会には大きく分けて2つの狙いがありました。1つ目は、スポーツマネジメント・コースに所属したばかりの2年生に対して、コース所属学生として3年間学んでいく上での基礎を与えることです。初日にはレクチャーを実施し、コースの教育目標の説明や具体的なカリキュラムの説明、コース運営を行う教員の紹介などを行いました。またその夜には体育館にてインディアカを、そして2日目午前中にはP A (Project Adventure) 体験を行い、学生同士の交流を深めました。これらはいずれもグループ内での連携が不可欠な活動であり、あまり知らない者同士でも共に協力し、何かを成し遂げるといった体験を



しました。

また、2つ目の狙いとして、夏季休業中にコース必修科目として履修する「スポーツマネジメント実習(集中)」についての理解を深めるというものであります。レクチャーにて実習の概要の説明や実習の捉え方、基本的心構えなどを指導すると同時に、社会教育施設がどのように運営されているのかを、肌で感じてもらいました。朝・夕のつどいでは、旗の掲揚や団体紹介、つどいの進行などを学生自身の手で行いました。また、自分たちの使用する布団のたたみ方についても事前に細かく説明を受け、退出の際には実際に自分たちの手でマニュアル通りのたたみ方を実践しました。些細なことに見えますが、これは施設のホスピタリティ向上にもつながるものであり、「マネジメント」を考える上で非常に重要な体験であったと思います。

わかれのつどいにて、小畑幸彦所長は、本研修会を通じて「3つの発見」をしてほしかったと語りました。それは、友達の良いところ、新たな自分、雄大な自然、の3点です。とりわけ、参加学生から「新しい友達と交流が持てたのがよかった」との声があったように、スポーツマネジメント・コースを選択して不安な気持ちを抱えていた中、新たな友人関係を作り、また従来からの友人の良いところを発見できたことが、本研修会の最大の収穫だったのではないのでしょうか。それはもちろん、新たなコース所属学生を迎える側に立った教員にとっても同様でした。実際に学生のグループに混じってインディアカなどを行う中で、初めて触れ合う学生たちとも打ち解けることができ、今後のコース運営においても多に意義のある研修会となりました。

(体育学科スポーツマネジメント・コース
：馬場・笹生)

平成22年度 第1回仙台大学FDセミナー 新任教員ワークショップ開催



4月20日、教育企画部と事務局が主催するFDワークショップが大会議室において実施されました。これは昨年度教育改善企画委員会がはじめて企

画し今年度もひきつづき開催されるようになったものです。

ワークショップでは、第一部に「仙台大学と大学教員の実務について」としてそれぞれの部署から説明がなされました。第二部には「教育の実際」として、学士課程教育を軸に中教審への対応について、現行カリキュラムを今年度中に抜本的に見直し学士力基盤科目・学科主要科目・コース主要科目を仙台大学としての学びの本流を策定すること、自己管理システムの本格実施、FDに関することなど、本学における教育に関する方針が判りやすく説明されました。新任の先生方からもそれぞれ質問がされ、出席者の先生方との意見交換などが和やかにかつ活発に交わされました。

第4回仙台大学体育施設管理士認定証授与式



4月19日(月)にA棟大会議室において体育施設管理士認定証授与式が執り行われ、朴澤学長より合格者一人ひとりに認定証が授与されました。体育施設管理士資格とは、(財)日本体育施設協会が付与している資格で、体育施設の維持管理や運

営に必要な知識・技能の習得と、体育・スポーツの振興に寄与する指導者の養成を目的としている資格です。民間のスポーツ施設でも注目されている資格で、体育施設設備に従事しようとしている学生にとっては強みとなる資格の一つです。18年度から体育系大学での受講の便宜が計られてから本学での取得者も年々増え、4年目となった昨年度は過去最多の85名が見事合格し、認定を受けました。

[出席者]

朴澤学長
キーナート副学長
仲野教授
永田准教授
小島体育施設管理コンサルタント

仙台市教育委員会が来訪



4月16日(金)に仙台市教育委員会7名の来訪を受け、朴澤学長、大山学生支援センター長ら10名の関係教職員が出席して、学校支援ボランティアの活動報告および今年度の取り組みについての話もたれました。

仙台市教育委員会学校教育部部長の菅野 茂氏の挨拶では「仙台大学生は質が高く、子供たちに同目線に立って接してくれて感謝しています。昨年は流行したインフルエンザの影響で、小学校の陸上記録会を追加開催しましたが、急なお願いにもかかわらず6名の学生に手伝ってもらい、生徒だけでなく保護者からも感謝の念が聞かれました。今の児童・生徒は必要なこと以外はやらない傾向にあります。年齢が近い学生の方たちがボランティアしている姿は児童・生徒にも良い影響を与えていますので、今後も引き続いての協力をお願いします。」と述べられました。次に朴澤学長が「将来、教職に就きたいと考えている学生は多く、学生に実体験の場を提供いただいていることにたいへん感謝しています。」

と感謝の念を述べました。その後、学生支援室の千葉室長より、平成21年度の活動報告と今年度の活動予定が示されました。

教育委員会の方から「今年度は新しく養護教諭の学校ボランティアをお願いしたい」と提案を頂くなど、たいへん有意義な意見交換がなされました。

出席者

< 仙台市教育委員会 >

- ・ 学校教育部部長 菅野 茂 様
- ・ 学校教育部参事 日塔 光博 様
- ・ 健康教育課課長 佐藤 順 様
- ・ 教育指導課課長 堀越 清治 様
- ・ 健康教育課指導主事 門脇 俊弥 様
- ・ 教育指導課指導主事 石川 一博 様
- ・ 教育指導課指導主事 高橋 綾子 様

< 仙台大学 >

- ・ 朴澤学長
- ・ 大山学生支援センター長
- ・ 佐伯教授
- ・ 渡邊(宣)教授
- ・ 太田教授
- ・ 長見准教授
- ・ 佐々木事務局長
- ・ 千葉学生支援室長
- ・ 佐藤臨時職員
- ・ 吉川臨時職員

仙台大学指定スポーツウェアがリニューアル

仙台大学指定スポーツウェアが今年度の新入生から(株)GANBAX社製の新しいデザインに代わりました。ポリエステル素材で白と緑の2色でデザインされた爽やかなウェアです。学生氏名が刺繍で入っており、脱いだウェアを取り違える心配もありません。



女子サッカー部が仙台大学カップ2010を開催



3月30、31日に本学の人工芝サッカー・ラグビー場と白石川公園人工芝グラウンドを会場にして「仙台大学カップ女子サッカーフェスティバル2010」が開催されました。

この大会は仙台大学女子サッカー部が主催で今年初めて開催されたもので、本学OB指導者間の交流を深め、高校・大学女子サッカーのレベルアップと普及振興に寄与することを目的としています。本学OBが指導している高校女子サッカーチーム5校（常盤木学園高校、明成高校、東北高校、仙台育英高校、前橋育英高校）と本学の計6チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。

女子サッカー部監督の黒澤新助手は「好ゲームが多く、思った以上に盛り上がってくれた。参加チームからは、仙台大学人工芝サッカー・ラグビー場の素晴らしさや本学OB指導者間の情報交換ができ、ぜひ来年も参加したいというお言葉をいただいた。我々にとってもメリットが多く、ぜひ来年も継続して開催したい。」と話しています。

参加校と指導者

常盤木学園高校

あべ よしはる

阿部 由晴 先生 昭和61年度卒業

東北高校

かわすえ まさお

川末 真生 先生 平成9年度卒業

前橋育英高校

さくらい つとむ

桜井 勉 先生 平成10年度卒業

仙台育英高校

すずき ゆう

鈴木 雄 先生 平成17年度卒業

明成高校

たげやま ひろき

武山 裕記 先生 平成21年度院修了

OBの田中美衣さんが世界選手権代表に

4月3日（土）に福岡国際センターで行われた全日本選抜体重別選手権においてOBの田中美衣選手（岐阜柔道クラブ / 平成21年度卒）が女子63kg級で2位となり、9月に行われる世界選手権東京大会代表に選出されました。世界選手権はオリンピックに次ぐ大きな大会で、これまで多数の国際大会に出場してきた田中選手にとっても初めての代表です。

田中選手は「ロンドンオリンピック代表になるためには来年の世界選手権代表に選ばれることが絶対条件。今年の世界選手権で結果を出さなければ来年の大会に声がかからない可能性もあるが、結果を残せば夢に一步前進する。自分の柔道人生の分岐点となる重要な大会となるので、チャンスをつかむ大会にしたい。」と話しています。

今年度から岐阜県体育協会に所属し、練習拠点

を筑波大学に置いた田中さん。「関東に練習拠点を置く事で、実業団チームに出稽古へ行ける利点は大きい。一日の過ごし方は自分次第なので、しっかりと計画立てて取り組み、9月の世界選手権でメダルを獲得したい。」と話してくれました。今年度から全日本柔道連盟シニア強化選手からナショナルチーム選手へと昇格を果たし、世界ランキングも6位（10.04.06現在）。新社会人としてスタートを切った田中選手の活躍に期待しましょう。



柔道部の深谷実紀さんがフランスジュニア国際大会代表に

5月15 - 16日にフランス・リヨンで開催される柔道の2010フランスジュニア国際大会に44kg級日本代表として深谷実紀さん(体育学科1年)が選出されました。

深谷さんは身長145cmと小柄ですが、休まずに動いて技をかけ続ける柔道で、高校(湯本高校:福島県)では女子48kg級で東北大会を制した実力者です。最軽量の48kg級の中でも小柄であることから、全日本柔道連盟の44kg級女子ジュニア強化選手に指定されています。この44kg級とは日本では中学生の大会まで採用されている階級で、一般の国内大会では採用されていません。世界的にはジュニア大会(19歳未満)まで採用されておりフランスジュニア国際大会には44kg級での出場となります。

深谷実紀さん(体育学科1年)

柔道は中学1年生から始め、2年生から県大会で優勝しました。しかし、全国大会ではベスト16の壁を越えられず、それが悔しくて高校は実家(郡山市)を離れて福島県の強豪校である湯本高校(いわき市)に進みました。高校でも東北大会を制しましたが、目標にしていた全国ベスト16の壁は越えることはできませんでした。

そんな私がジュニア強化指定選手に選ばれたのは偶然で、48kg級選手の中から44kg級の強化指定選手を探していた全日本柔道連盟から高校3年のインターハイの時に話を頂きました。48kg級の中でも小柄だった事が幸いし、運が良かったとしか言いようがありません。更に幸運な



事に、ジュニア強化選手枠で昨年の講道館杯(世界選手権代表と強化指定選手の選考を兼ねた国内トップ選手が集う大会)48kg級にも出場する事ができ、良い経験となりました。

進学にあたっては、筑波大学や国士舘大学など関東の強豪校も選択肢にありましたが、これらの大学は高校で日本一になった人たちの集まり。仙台大学は高校では一番になれなかった人が、大学で日本一になると決意した人たちの集合体で、これから這いあがるメンバーばかり。モチベーションが非常に高いと感じ、進学を決めました。

現在の目標は、国内の大きな大会や国際大会で優勝することなので、今回のフランスジュニア国際大会で結果を出す事はもちろん、強化合宿でも積極性をアピールしてきたいと思います。両親には柔道をするために高校から一人暮らしをさせてもらい、申し訳なく思っているのですが、両親のためにも結果を出し、喜んでもらいたいです。

Jリーグ特別指定選手の奥埜博亮さんが公式戦デビュー



大学などに所属したままJリーグの試合に出場できる「JFA・Jリーグ特別指定選手」の指定を受け、昨年からはJ1ベガルタ仙台に加入している奥埜博亮さん(体育学科3年)が公式戦デビューしました。舞台は4月14

日のJリーグ・ヤマザキナビスコカップ、京都サンガFC戦で、後半ロスタイムに途中出場するとスルーパスを出して決定機をつくるなど短い出場時

間でしたが、今後に期待が持てるプレーをみせてくれました。

奥埜さんは明成高校・仙台コース出身。中学時代から日本選抜チームでプレーし、2002年のU13、2005年のU16日本代表として活躍してきました。本学でも中心選手として得点を量産し、今年度のデンソーチャレンジカップ西都市大会では2大会連続で優秀選手に選ばれています。今後の奥埜さんのプレーにご注目下さい。

第59回お花見レガッタ男子舵手つきフォア初優勝



4月3日(土)~4日(日)に埼玉県戸田市で第59回お花見レガッタ(東京都ボート協会主催)が開催されました。本学からは男子エイト、男子舵手つきフォア、女子舵手つきクォドルブルの3種目に出場し、男子舵手つきフォアで初優勝を勝ち取りました。また、エイトは9位、女子舵手つきクォドルブルは5位と健闘しました。

この大会は関東地方の桜が満開になるこの季節に開催されており、シーズンの幕開けとなる非常に重要な大会として位置づけられています。全国各地から社会人チームや大学チームが出場する日本最大のローカルレガッタです。